



本日〈6月20日〉のプログラム

年度末移動夜間例会



写真提供 小池 将夫

司 会

馬場 佳子 副幹事

点 鐘

小山 市康 会長

斉 唱

「それこそロータリー」
ソングリーダー 池田 広樹 会員

四つのテスト

森永 健 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介

佐野 仁 様 (神奈川県東 R C 会長)
宇都 章一 様 (神奈川県東 R C 幹事)

特別行事

◆神奈川県東 R C 表敬訪問



神奈川県東 R C 会長 佐野 仁様、幹事 宇都章一様

2021-2022年度 R I 会長 シェカール・メータ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第2590地区 ガバナー 小倉 正

会 長	小 山 市 康	会 計	渡 邊 淳
会長エレクト	赤 堀 伽寿一	副 会 計	長 野 毅
副 会 長	横 溝 亘	S A A	古 澤 一 憲
副 会 長	加 藤 仁 昭	副 S A A	加 野 亮 一
幹 事	友 添 辰 哉	副 S A A	吉 田 隆 男
副 幹 事	馬 場 佳 子	クラブ会報	清 水 茂 夫

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
 例会場 ホテルキャメロットジャパン
 URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
 E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
 TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
 創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

◆ホテルキャメロットジャパン 宮脇様へ謝礼贈呈



会長報告

小山 市康 会長

- ・6月度定例理事会報告

幹事報告

友添 辰哉 幹事

- ・神奈川RCの例会場が7月より横浜ロイヤルパークホテルに変更になります。例会日は毎週月曜日に変更はございません。
- ・本日、例会終了後にクラブ協議会を開催致します。
- ・次週6/24の例会は6/20(月)年度末夜間例会になります。場所は崎陽軒本店、点鐘は18:30です。お間違えないようよろしくお願い致します。会場は4階もしくは5階です。
- ・事務局が6/20月曜日より移転となります。既にメールとFAXにて皆様には連絡しておりますが、電話、FAX番号も変更になりますのでよろしくお願い致します。

スマイルボックス

古澤 一憲 SAA

神奈川RC 会長 佐野 仁様 本日は年度末のご挨拶に参りました。一年間ありがとうございました。


神奈川RC 幹事 宇都章様 本日は表敬訪問でお邪魔させて頂きました。小山会長、友添幹事、一年間ご苦勞様でした。お世話になり、ありがとうございました。

小山市康君 ①神奈川RC 佐野会長、宇都幹事、ようこそお越し下さいました。一年間、何かとお世話になりました。②本日で、キャメロットでの例会場は幕を下ろします。お世話になりました。

田邊正彦君 神奈川RC 会長、幹事様、一年間ご苦勞様でした。

青柳 紀君 やっと戻りました。2-4級の身体障害者です。従来通りよろしくお願い致します。

表紙の写真 T34



我が家のサボテン“短毛丸”が今年も花を咲かせました。毎年1~2輪の花ですが、今年はなんと6輪もです。でも、いつもながらの一日だけの花の命でした・・・。

花言葉は“秘めた情熱”。

【写真提供 小池 将夫 会員】

鴻 義久君 小山会長、友添幹事、コロナ禍で始まり例会場移転、と大変な一年間お疲れ様でした。

山本 登君 滑り込みアウト。早退はしません。

矢野修二君 水曜日のロータリー情報・研修委員会、田中委員長ご苦勞様でした。皆様お疲れ様でした。良い研修委員会でした。後の研修会も良かったです。植田さん！！

河野明光君 長期に渡り、我々の例会配膳を勤めて頂き、感謝申し上げます。

加藤仁昭君 先日の研修委員会参加の皆様、お疲れ様。充実した会になりました。田中委員長のお陰です。

渡邊 淳君 年度末のご挨拶、そして長年お世話になったキャメロットに感謝を込めて。

飯田泰之君 だいぶ暑くなりました。ご自愛のほど・・・。

山田正憲君 キャメロットでの最後の例会。ちょっと寂しいですね。

加野亮一君 ①河野さん、先日はありがとうございました。②田中委員長、ロータリー情報勉強会お疲れ様でした。③今日から久しぶりのソロキャンプ、行ってきます。河口湖近くです。

北村大輔君 神奈川RC 佐野様、宇都様、ようこそ。ごゆっくりお過ごし下さい。

6月17日	15件	68,000円
本年度累計		1,465,550円
年度目標進捗状況		-34%

出席報告

北村 大輔 出席委員長

会員総数	49名	(30+19)名	
出席会員数	41名	(27+14)名	
出席率		93.18%	
ゲスト	2名	ビジター	0名
前回補正後	91.49%	前々回補正後	95.45%

年度末挨拶

◆会長 小山 市康



皆様この一年、ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

今年度は例年になく慌ただしく始まり慌ただしく終わった一年間でした。当クラブが地区最初のガバナー訪問先となっていたことで、年初の前から準備に追われ、8月第1週からコロナ禍のため2か月間休会になってしまいました。また、翌年1月の終わりからやはりコロナ禍により2か月間休会となっしまい、更に翌月4月13日にはキャメロットから例会場が6月末で閉鎖される発表があり対応しました。

長引くコロナ禍、更にはウクライナ情勢の悪化が追い打ちをかけ、ロータリー活動のモチベーションが下がらない様に、また会員の結束力を大切にするため今年度のテーマである「奉仕活動の喜び、明日へつなげよう」を念頭に活動して参りました。

コロナ前はロータリーの行事は例年ほぼ同様に活動してきましたが、これまでのコロナ禍2年半は当初の計画を中止するか見直しせざるを得ませんでした。各委員会が委員長だけでなく委員みんなで考えてきたこと、正にこれが活力の源だったと再認識できました。今年度はどちらかというと、このような情勢だったから古参会員の活躍が目立ち、その時々的確なアドバイスとご協力を頂き、若い会員の方々はよい刺激となったものと思います。

今年度は大きな節目にも感じられる出来度が二つありました。

まずは悲しい出来事で当クラブに長きに渡りご尽力された森永正昭元会員(現森永会員の御尊父様)、岩澤利雄元会員、我妻隆邦元会員、そして奉仕活動において大変にお世話になったOWOP協会の鈴木一男様、台北滬尾RCの林錫卿様、がご逝去されたことです。改めて、謹んでご冥福をお祈り致します。鈴木一男さんに関しては、当クラブとともに井戸掘りなどスリランカに対し一生懸命に奉仕活動し、クラブの歴史をつくって頂きました。林錫卿さんに関しても、淡水RCそして台北滬尾RCとの姉妹提携にご尽力され、当クラブとともに奉仕活動に貢献されてきました。

もう一つはホテルキャメロットジャパン例会場の閉鎖であります。40年来クラブ会員が通い続けたクラブの居場所が変わってしまうことは大変残念でなりません。特に古参の会員にとっては感慨も一入であろうかと思えます。

新たな例会場である崎陽軒本店に決定されるまでの経過は、以前文書でご説明しましたが、例会の食事が毎回同じような弁当であったことから、会員から改善できないかと幾度となく要望されていたことに端を発しました。ホテル側と交渉し要望を伝えてきましたが、現環境下では弁当以外は出来ない回答でした。少しでも美味しく食べるには、配膳された温かなものを早めに食べるしかありません。

そういう経過があり、理事会で「例会場検討委員会」を立ち上げキャメロット以外の候補を探し始めました。その後突然のキャメロットからの例会場閉鎖を聞いて「例会場移転実行委員会」に名称変更し、検討し、臨時総会で崎陽軒本店に決定がされたことは記憶に新しいことです。その間の経過については一言では言い表せませんが、例会の食事の改善問題と例会場の閉鎖問題は、単に偶然な流れだった訳ではなく必然だったと考えます。古参会員の察知力とご協力に対し感謝致します。

事務局の移転については、最終的に事務局の田中さんのご自

宅をお借りすることになりました。事務所の片付けと引越したいへん忙しい最中ですが、田中さんと手伝いをされた会員の方々、大変ありがとうございます。そして会員皆様からも会場移転、並びに事務局移転にかかる費用を、2月～3月のコロナ禍での休会中の例会費から充当してもよいと快く了解して頂いたことに対しても感謝致します。

最後となりますが、今年度もコロナ禍で思うように活動が出来ない中、各委員会は臨機応変に可能な限り取り組んで頂き、そして皆様の協力を頂き誠にありがとうございました。また、その時々に対応しい対応ができるよう心から支えてくれた友添幹事と、円滑に進行が出来るように事前準備等をしてくれた事務局の田中さん、大変助かりありがとうございました。

キャメロットの例会は神奈川東ロータリークラブとしては本日が最後となり、次週の崎陽軒本店で開催する年度末夜間例会を残すのみとなります。コロナは収束していませんので、引き続き注意して頂き私からの挨拶と致します。

◆副会長 横溝 亘



今年度副会長を務めさせて頂きました横溝です。

まずは、小山会長・友添幹事1年間お疲れ様でした。そして奉仕活動委員会の委員長をはじめ委員の皆様、委員会活動にご協力頂きました会員の皆様お疲れ様でした。

今年度も本日が最終例会となりまして、振り返りますと年度初めにはコロナ禍も収束に向かい小山会長の「奉仕活動の喜び、明日へつなげよう」というテーマを中心に活発な委員会活動も出来るのではと思っておりましたが、思いに反してまん延防止等の措置が発令され例会自体も開催出来ない期間がかなり続きました。

そのような中でも親睦委員長を中心に年末の家族会・春の家族会を実施頂き、会員家族を交えた楽しい時間を提供頂きました。

プログラム委員長には度々の例会変更で卓話者とのスケジュール調整も困難な中でも、しっかりと卓話の時間を維持して頂けたことに感謝致します。

そして何より若い会員の皆様が積極的に会員増強活動に励んで頂きまして、不透明な情勢の中でも新入会員をお迎えできたことが、大きな収穫となりました。

次年度からは例会場も変わり、色々な場面で新たな事が起こ

ると思いますが、次年度赤堀会長・馬場幹事にはそんな時だからこそ力を発揮出来る事と思いますので、思う存分暴れてください。

最後に副会長としての責任を十分に果たせたか甚だ疑問ではありますが、皆様のご協力で今年度無事終了することが出来たことを感謝申し上げまして、挨拶を終わらせて頂きます。

◆副会長 加藤 仁昭



小山会長、友添幹事、そして今年度役員および委員長の皆様、1年間お疲れ様でした。

今年度は、3年目となり未だ収束が見えないコロナウイルス対応や、突然の例会場移転等、課題の多い1年でありました。

しかしながら小山会長のリーダーシップのもと、会員の皆様の大変なるご支援、ご協力により無事に帰港出来ましたことは副会長として御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

◆幹事 友添 辰哉



先週やっと最後の理事会を終了することが出来ましてほっとしました。毎月の理事会では決めることが多々あり、理事・役員の方々には色々と貴重な意見を頂き勉強になりました。改めてありがとうございます。

今年度の後半も年明けからコロナウイルスの感染拡大に伴いまして、1月の第4週より3月第3週までの通常例会が休会となりました。

理事会は2月、3月はWebで行いました。4月1日国際奉仕・青少年奉仕委員会合同のクラブフォーラムを行い、ロシアのウクライナ侵攻などもあり、テーマを「今の国際情勢における奉仕活動について」として意見を伺いました。難しいテーマでしたが、色々な考えや今後の活動について参考になりました。

また、昨今はウクライナの悲惨な状況が連日報道されております。奉仕の精神で活動しているロータリークラブとして何が出来るのか深く考える必要があると感じました。1日も早い解決を祈るばかりです。

5月1日には岡部社会奉仕委員長が中心となり、地区補助金プロジェクトによる毎年恒例の岸根公園の花壇花植えを行いました。この活動は神奈川東の看板もありますし、宣伝にもなるので地域社会の活動においてもいいかなと思っております。

前年度2590地区で行われました子供食堂支援につきましては、今年度は当クラブが引継ぐ形で「ムーミンなかま食堂」に寄付することとなりました。ムーミンの会 中川理事長にも先週卓話をして頂き、寄付が決定したことにつき大変喜んで頂きました。今後はお弁当作りなど、当クラブでもお手伝いできればいいなと思っております。ご尽力頂きました中野青少年奉仕委員長ありがとうございました。

例会におきましては、「まん延防止等重点措置」の発令により休会になり、卓話の日程が順延及び中止となり調整に苦労されたことと思います。茂木プログラム委員長には感謝申し上げます。

最後になりますが、長年に亘りお世話になりましたホテル横浜キャメロットジャパンの宴会場が6月末日で閉鎖することとなり、例会場と事務所の移転を余儀なくされました。昨日小山会長とキャメロットの総支配人に最後の挨拶に行ってきました。今月の27日に事務所の立会と鍵の引き渡しをすることとなっております。

本日も事務所の引っ越しをして頂いておりますが、事務所の引っ越しに際して石川会員、月山会員、岡部会員、事務局の田中さんたちには、倉庫にあった40年以上もたまった諸々の備品や書類の整理を何日もかけて片付けて頂き、お疲れ様でした。また、本日、クラブ協議会の後に崎陽軒本店に行って来週月曜日の年度末夜間例会に向けて、次年度の会長・幹事・SAAと一緒に会場の設営、準備の打合せをしてきます。これで新年度から崎陽軒本店でスタートが切れることとなります。

事務所の移転等、例年にないことが多い中、事務局の田中さんには助けて頂きありがとうございました。また、引っ越しでは大変疲れたと思います。お疲れさまでした。

以上をもちまして、年度末の挨拶とさせていただきます。会員の皆様1年間ご協力ありがとうございました。

◆会計 渡邊 淳

キャメロット最終となるご挨拶をさせていただきます。

年度末でございますので、皆様への1年間の感謝の気持ちを込めて、ひとことご挨拶させていただきます。

私は、前任の白井会員退会に伴って9月よりピンチヒッターとして会計の職を務めさせていただきました。



新型コロナ2年目となったこの年、第5波、4回目の緊急事態宣言と前後して新年度をスタートし、例会はじめ活動の休会時期が多く、会長幹事におかれては難しいかじ取りを迫られたと思いますが、会計としては動きの少ない前半でありました。

年度途中からは例会場移転の話が持ち上がり、シミュレーションなど、新たな動きとなってまいりました。吉田パストガバナーを筆頭に多くの方のご尽力により会場移転準備は順調に推移しておりますが、今後早急に、対応した収支予算の見直しが必要となり、今回を契機にクラブの収支構造を見直す時期を迎えたと考えます。

企業においてもそうであるように、ロータリーもまたコロナ後の新たなスタイルへと改革し、未来へ向けて持続成長していくことが求められます。クラブ一丸となってコロナ後の新しいロータリーを作り上げていくことが求められ、その中で、しっかりとバランスのとれた予算立てができます様、次年度会計へと引き継ぐとともに、戦略計画委員会の立場からお手伝いしてまいります。

そして、今年度も残りわずかとなりましたが、スマイルが例年の予算に手が届かない厳しい状況となっております。どうか皆様にご支援、ご協力頂けますよう会計の立場からお願い申し上げます。

最後になりますが、ピンチヒッターの会計は今年限りで、次年度より、会計のプロフェッショナルである長野会員がお務めになりますので、大いに期待して、バトンタッチさせて頂くことと致します。

次年度、赤堀会長・馬場幹事年度がすべてのクラブ会員にとって充実した年度となるよう、また、我々のクラブが新たな環境のもと、より活性化して発展することを祈念申し上げ、簡単でございますが、年度末に際してのご挨拶と致します。

第3回クラブ協議会開催

6月17日（金）例会終了後に、今年度最後のクラブ協議会を開催致しました。各委員会より、1年間の苦労話や成果についての報告が行われました。

ロータリーニュース

世界中で活躍する「世界を変える行動人」

ハイチ

ポルトープランス近くでHaitian Projectが運営する生徒数360人の中学校、Louverture Clearary Schoolは、2005年から太陽光発電を利用していますが、安定した電力を提供できるバッテリーが不足しています。カナンデーグア・ロータリークラブ（米国ニューヨーク州）会員であるケント・ギルジスさんは、家族とともにこの学校でボランティア活動をしたときにそのニーズを目にしました。

「寮の前を通りかかったとき、窓を覗くと、一つ部屋で40人の子どもが電球一つのみで勉強していたのです」とギルジスさんは振り返ります。2020年後半、ギルジスさんの息子とその友人が自分たちの学校の課題として安定した電力の提供に取り組み、カナンデーグアのクラブ、第7120地区（ニューヨーク州）のほかのクラブ、セントピーターズバーグ・ロータリークラブ（フロリダ州）がこれを支援しました。バッテリー、配線、インバータ、その他の機器は、Louverture Cleary Schoolの卒業生が経営する太陽光発電会社から購入しました。

「今後は大きな嵐に見舞われても、3日間電力の需要を満たすことができます」とギルジスさんは言います。

カナダ

カナダのプリンスエドワードアイランド州の二つの畑で真菌が見つかり、米国へのジャガイモの輸出が停止されたとき、農家の損失を補うためにオンタリオ州（カナダ）の数十のクラブが力を結集し、まだ食べられるじゃがいもの購入、輸送、フードバンクへの配布を手配しました。この取り組みを開始したブレイスブリッジ・ロータリークラブは、地元自治体とのつながりを活かして、一つの栽培農家から4,000袋分（1袋約4.5kg）のジャガイモを入手して輸送するための約9,000米ドルの地方交付金を手配しました。2月19日には、この地域の五つのロータリークラブと一つのローターアクトクラブの会員が倉庫に集まってじゃがいもの荷下ろしと仕分けを行い、14の食料配給所に届けました。

約800マイル（約1280km）離れたプリンスエドワードアイランド州シャーロットタウン近くで家族農場を経営するリック・サンダーソンさんは、収穫したじゃがいもの一部を救うために尽力してくれた人たちの心遣いに驚いています。サンダーソンさんはこう言います。「必要なときにロータリーが私たちを助けてくれたことに本当に感謝しています」



ガーナ

ガーナ南西部の村を破壊し、少なくとも13人が死亡した爆発の直後、全国のロータリークラブが援助に駆けつけました。タルクワ・ロータリークラブは、1月に起きたこの爆発のわずか1日後に、衣類、食料、せっけんなどの物資を届けました。この爆発は、採掘用の爆発物を載せたトラックとバイクが衝突したことが原因でした。クラブからの支援は1回切りではなかったと、会員であるアブデルラザク・ヤクブさんは述べます。ヤクブさんによると、その後クラブは、200人近い子どもが家を失い、制服、本、文房具などの必需品も失ったことを知りました。クラブは、ガーナ国内のクラブから寄せられた約4,500ドルを使用して必需品を購入し、2月24日、家を失って緊急キャンプに住んでいた多くの生徒たちにこれを配布しました。



オランダ

オランダのロータリー会員の間では、国民食を祝うことが伝統となっています。第1570地区パストガバナーであるピーター・シュットさん（ナールデン-バッセム・ロータリークラブ会員）によると、国内のクラブはチャリティーのためにビール、ワイン、コーヒーなどの商品を生産、販売しています。クラブ会員

でパートタイムの養蜂家であるエリック・ベルケルマンスさんと地元の養蜂家協会が管理する養蜂場を見学したクラブ会員たちは、あるアイデアを思いつきました。それは、募金のためにはちみつを作って売る、というものです。こうしてベルケルマンスさんとシュットさんおよびほかのクラブ会員2名は、1回目として18オンス（約28g）の瓶60個（各約8ドル）にはちみつを入れて販売し、その収益を、Goois 自然保護区にある養蜂家スタンド近くの案内板設置のために活用しました。「多額の収益を得ることが第一の目的ではありません」とシュットさん。6月の収穫には、環境志向であるこのクラブの34人の会員のうちもっと多くが参加すると期待していると、シュットさんは言います。「ミツパチの飼育を通じて地元の自然環境についての認識が高れば、ほかの関係者にもそれが広がります」とベルケルマンスさんは述べます。

オーストラリア

メンズヘルス・トレーラー（The Men's Health Education Rural Van）は、2008年に第9670地区で始まり、2017年にワーナーズベイ・ロータリークラブによって再開されました。看護師付き、2室を備えたこのトレーラーは最近、コロナ禍によってしばらく中断されていました。患者の9割が男性であり、血圧、血糖値、コレステロール値の無料検査（10分）を内密に行うことができます。これが文字通り命を救っていると話するのは、このトレーラーのチームコーディネーターであるグレアム・フーパーさん（ワーナーズベイ・ロータリークラブ会員）です。2月と3月の7週間、トレーラーは23の町を回り、730人の患者の検査を行いました。「そのうち26%が医師の診察を受けるように言われ、2%は緊急に医師の診察が必要でした」とフーパーさん。「彼らは、脳卒中や心臓発作、または糖尿病による大きな問題や突然死の高いリスクがありました」。ワーナーズベイのロータリアンは、ルートを決め、各地でのボランティアと広報、看護師の宿泊といった手配を行っています。



次回〈7月1日〉の予定

新年度挨拶

会長、副会長、会長エレクト、幹事、会計